

① 田中克佳 著

『踊る!ブラジル : 私たちの知らなかった本当の姿』

(小学館)

私達日本人にとっては、地球の裏側にある国がブラジルです。サッカー、カーニバル、コーヒー、アマゾンの密林など様々なイメージがありますが、実体がかみにくいのが現実です。

本書では、著者のブラジル撮影旅行の体験からブラジルの国民性とは、いつどのようにして形成されていったのか、広大な国土に広がるブラジルの歴史と文化、大自然と複雑に絡み合う人々の心理など、たくさんのグラビア写真を織り交ぜながら、ブラジルのブラジルたる所以に迫ります。

そこには、決して表層的なブラジルではない人々の姿がそこかしこに溢れています。(S.S.)

302.62 ||Tan

③ 仁科邦男 著

『犬たちの明治維新 : ポチの誕生』

(草思社)

本書では、黒船襲来によって日本人の生活が大きく変化したように、日本の犬たちの運命も激変したことが述べられています。

ペリー来航の際、将軍からアメリカ大統領へ贈られたこと、日本では明治維新まで地域ぐるみで飼われていた普通の里犬たちが一掃されて洋犬がもてはやされるようになったことなど、犬に関係した話題を来日した各国の公使、通訳、医師たちの日記、また交渉に当たった日本側の役人や通訳の報告書などの史料を駆使して取り上げています。明治天皇の狩猟犬、西郷隆盛の薩摩犬、犬の名前人気ランク第一位の「ポチ」の語源についてなど興味深い内容です。(F.O.)

645.6 ||Nis



② James Bowen

“A street cat named Bob : and how he saved my life”

(Thomas Dunne)

ロンドンで知らない人は居ないと言われるほど有名な、路上生活者ジェームズと野良猫ボブとの心温まる物語です。ボブは「ハイタッチ」をする猫として一躍有名になったので、ご存知の方も多いのではないでしょうか。このボブとの出会いにより、ジェームズは自分を変えて行こうと決意します。さて、どの様になって行ったのでしょうか。本書の邦訳『ボブという名のストリート・キャット』(服部京子訳 辰巳出版)も入ったので、こちらを先に読んでから原書に当たるというのも一法でしょう。(T.F.)

305.569 ||Bow

④ 星田直彦 著

『図解よくわかる単位の事典』

(KADOKAWA)

単位は多様で千差万別です。その起源は古く、紀元前の秦(中国)の始皇帝の頃から度量衡の中に存在したと本書は述べています。

長さはm、土地面積は㎡、缶コーヒーはg、醤油はmlと表示されます。これらは国際単位系SIで定められた基本単位です。因みに前述の「m」の語源はギリシャ語に由来すると言います。ただし、この国際単位系SIは19世紀頃まで普及せず、世界の国々では単位も統一されていない状態でした。日本では尺や寸などが長さの単位として使われていましたが、メートル条約加盟国になった1885年から使うようになりました。

複雑すぎる単位。その中でもよく使われる108個を豊富な図版で解りやすく解説します。(H.I.)

609 ||Hos